S．F．社会システム学科・２年次

Ⅰ．留学レポート

①　協定留学を目指した理由

私は大学に入る前も、入ってからしばらくしても、留学に行くことも英語を勉強することも考えてなかったです。しかし社会システム学科の CASE プログラムで中級のクラスに入り、週３でネイティブの先生の授業を受けていくうちに自分が思っていることや感じたことを英語でうまく伝えられず悔しいと思い、単純ですが英語で思いをうまく伝えられるようになったら素敵だなと思うようになったことが１つ目の理由です。もうひとつの理由としては、ラッキーなことに私の周りには意識の高い友達が多くいて、私の英語へのモチベーションも上げてくれたことかなと思います。自然と留学についての情報も入ってきましたし、このままぼーっと時間だけが過ぎていく大学生活ではダメだと気づかせてくれたきっかけになりました。何かに打ち込んでいないとダメな性格なので留学はとても良い機会でした。正直、周りの人たちがいなかったら私は大学に協定留学制度があることさえも知り得なかったし、きっと留学をしようとも思っていなかったです。一つ一つの周りとの出会いやつながりは大切にした方がいいと思います。留学を本格的に考え始めた時期は１回生の秋くらいです。

②　留学を目指してから出願までの英語学習方法

おそらく、私は周りのみんなより留学を意識し始めたのが遅かったので、大学で開催されている留学についてのセミナーなどにも行っていませんでした。留学の関する知識は友達からしか聞いてなかったので、留学に行きたいと思い始めてから、まず国際課に行って IELTS 対策講座が録画されている DVD を見るところから始めました。早くから留学を考えている人は大学が開催している講座をぜひ利用した方がいいと思います。勉強方法は全技能の模擬テストと対策方法が収録されている参考書を１冊買って何回か繰り返し解いて問題形式に慣れて、そのあと過去問に取り組みました。Listening の対策は通学中とかの隙間時間に TED を聞いていました。耳だけで理解できるまでずっと同じものを聞くようにしていました。Reading は英語の本を読んで、あとはひたすらテスト対策の問題を解いていました。Writing は大学の先生に授業前に時間を作ってもらい添削してもらっていました。Speaking は毎週の授業をしっかり発言したり、家でひたすら１人で英語を喋ったりしていました（笑）

③　留学決定から出発までの準備期間

ビザの手続きはてこずることが多いと聞いていましたが私はわりとすんなりできたので特に大きな問題はなかったです。それよりも予防注射の方が数も多いし、打ってもらえるとこ

ろは限られているしで大変でした。ものによっては期間を空けないと打てないものもあるし、証明書をもらうだけで多額の請求をされた友達もいたので、いいところをちゃんと早めに探した方がいいと思います。語学勉強に関しては大学での英語の授業を週５に増やしたくらいで、特に何もしていませんでした。今となって思えばもっと取り組んでおけばよかったと思います。

④　現地到着後

空港からは大学のシャトルバスが迎えにきてくれました。シカゴにあるオヘア空港から Millikin までは大体３、４時間です。迎えの時間が夕方くらいで、寮に着いたのがもう夜だったのでヘトヘトでその日はルームメイトに挨拶して寝るだけでした。スーパーマーケットなどで日用品を買うのは翌日だったので、最低限の必需品は用意しておいた方がいいです（スリッパ、ブランケット、着いた日分のシャンプー、リンス、ボディソープ、メイク落としなど)。オリテ期間はとても忙しく、本当に次から次へとやることがきます。慣れない土地だし緊張するし気疲れするしで大変でした。しかし色々と学校が企画してくれていたイベントがあるので気になるものは積極的に参加した方がいいと思います。

⑤　語学研修期間

◆　語学研修先の施設・環境について

Millikin の ESL の教室はいたって普通です。International student 用の部屋があるのでそこで勉強したり、空きコマに仮眠をとったりしていました。日本人の数は少ない方だと思います。先生はみんな優しい方々ばかりでした。

◆　授業内容、課題、試験

授業内容は、Speaking & Listening、Writing、Reading、Vocabulary の４つと新しく TOEFL 対策講座が開設されました。初級、上級みたいな感じで分かれていて受講する人数が少ない時は合同クラスになります。

授業内容

・Speaking & Listening

秋学期に初級をとっていました。クラス内で３、４回プレゼンテーションがあり、先生がフィードバックを書いてくれます。授業内容も中高で習ったようなことが多く、しかもほとんど日本人だったのであまり取る意味なかったなと思います。

・Writing

秋学期に初級をとっていました。１セメスターで合計５、６個のテーマの違うエッセイを丁寧に書いていく感じでした。様々な英語のエッセイの種類や、書き方、構想方法、エッセイ独特の言葉の言い回しなど学べたので春セメスターに活かせて、秋学期にとってよかった

なと思いました。Writing が完璧である自信がある人以外は初級、上級どちらかはとるべきかなと思います。

・Reading

秋学期に初級をとっていましたが、上級と合同でした。１セメスターで２冊の本をクラス内で読んで、みんなで内容について話すみたいな感じでした。たまに内容に関するクイズもありました。最初は次の授業までに２、３０ページずつ読まないといけないのが大変でしたが、慣れてくると割といけました。クラス外でも自分で本を選んで Summary を書くのもありました。

・Vocabulary

秋学期に初級、春学期に上級をとっていましたが、両方とも合同クラスでした。月曜日と水曜日が授業日でしたが、月曜日に単語、水曜日にイディオムみたいな感じでした。先生が細かいニュアンスまでわかるまで教えてくれるのでとてもわかりやすかったです。たまに聞いたことがないスラングとかも教えてくれるので面白かったです。テストはありますがそんなに難しくないのでとって損はないと思います。

・TOEFL 対策講座

とってなかったのでわからないです、ごめんなさい。

課題、試験

課題は適量だと思います。どの授業も毎回課題が出されて次の授業までにやってくるという感じでした。ほとんどの授業がテストはないですが、唯一 Vocabulary だけ中間、期末テストがありました。留学生が自分のとりたい授業を取るという形だったので特にクラスメイトは固定されていなくていろんな人と友達になれます。

⑥　正規科目履修期間

◆　大学の施設・環境について

主に利用していた校舎は Shilling Hall というところでした。ほとんどのクラスが少人数クラスだったので教室はそこまで大きくありません。大学の施設は良くも悪くもなく普通でした。Millikin はシアター系とミュージック系などの芸術系はとても強い学科なので、それらの設備はしっかりしていました。私はピアノのクラスをとっていたのですが、音楽棟の中にいくつもグランドピアノを設備した部屋があり、練習できる環境が整っていました。

◆　履修科目

・CO100 Introduction to Communication Skills

秋学期に唯一とった正規科目です。講義形式の授業で、内容はコミュニケーションがどのように考えられてきたか、どのように変わってきたかなどです。哲学的な要素もあり、専門用

語的なものも出てきたので理解するのが難しい時もありましたが、先生はとてもやさしかったので授業終わりなどに質問するとやさしく教えてくださりました。

・SO100 Introduction to Sociology

日本では学べないような実際の現在のアメリカ社会の問題点が中心の社会学の授業です。講義形式の授業で、パワポを見ながらメモをする感じでした。毎週クイズと、中間・期末テストと、ファイナルのレポートがありました。

・ML108 Piano

マンツーマンで週に１回１時間ピアノを教えてもらう授業でした。Millikin は芸術系がとても充実していて設備もしっかりしているので興味が少しでもある人はとって損はないと思います。良い息抜きになった授業です。週に１回クラスのみんなで集まる日があり、そこで練習したものを発表しました。学期末にはちょっとしたホールで発表会もあります。

・MH100 Understanding Classical Music

音楽の基礎についての授業です。英語で音楽用語を学びたいと思いとりました。主に音楽史についての授業で時代ごとに小テストがありました。

・PO321 Politics of Borderland

移民難民問題について学び考える授業でした。講義とディスカッション１：１くらいです。後半は主にバルト三国の第二次大戦時の国外追放、それに伴う移民問題などについて学び、知り得なかったことを多く学べたとても有意義な授業でした。プレゼンやエッセイなど、課題がたくさんで大変でしたが、とってよかったと思える授業のうちの一つです。

・MG 300 People and Performance

週に１回、１回２.５時間のマネジメントの授業で、内容はどうしたら効果的に人を動かせるか、またはどのように人に良い印象を与えられるかなどについてのセルフマネジメントについてでした。先生もクラスの人もみんないい人たちでアメリカ人の友達が一番多くできた授業だったとおもいます。

◆　授業、レポート、定期試験

秋学期は正規科目の授業についていくのが大変で、授業をボイスレコーダーで録音してわからないところは家で何回も聞き直していました。日本語で検索しても出てこないことも多くそういう点では大変でしたが、英語で情報を得ることに慣れられたのでよかったかなと思います。春は秋学期に比べるとたくさん正規科目をとったので課題の量が比べものにならないくらい多くて常に課題、テストがある、みたいな感じでバタバタとしていましたが、とても充実していました。ファイナルの時期に本当に一気にエッセイとテストがドバッとくるのでその時は勉強漬けでした。

⑦　クラブ、課外活動、ボランティア活動

特にしていなかったです。

⑧　現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

寮はほとんどの留学生が Woods というところに住んでいました。４人でシェアハウスみたいな感じでキッチン、リビングルームが共用でした。１つのシェアハウスに ABCD の部屋があって１人部屋が割り当てられます。A と B、C と D がそれぞれ隣り合っていてトイレとバスルーム、洗面所はその２人ずつで共用でした。私の家はアメリカ人と韓国人とオランダ人とで住んでいました。私の家は比較的仲良く特に隣の部屋の韓国人の子には仲良くしてもらっていました。でもルームメイトとはまったく話さない家もあったらしくて雰囲気がシェアハウスごとに違うみたいでした。食事は１２０食ミールプランを取らないといけなかったのですが、友達と作ったり、日本食が食べたかったりもあったので自炊も結構していました。通学距離は歩いて１０分くらいです。

⑨　長期休暇の過ごし方

Thanksgiving の休みはニューヨークに旅行に行きました。冬休みは寮に滞在できたので寮にいましたが、年末年始はフロリダのディズニーに旅行に行きました。春休みはプエルトリコに行きました。

⑩　留学期間中の就職活動の取り組み

特にしていません。

Ⅱ．留学の感想

①　留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったことはたくさんありますが、ルームメイトと話したりご飯を作ったり映画を見たりして夜更かししたのがとても楽しかったです。韓国からの留学生でしたが４回生だったので色々教えてもらいましたし、ほんとにお姉ちゃんみたいな感じでした。たくさん韓国料理を作ってもらったので韓国料理が大好きになりました。また、週末にはたくさんの留学生でパーテイーを開いてみんなで話したりゲームをしたりするのもとても楽しかったです。

②　留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

つらかったことは日本にいる友達や家族と長い間会えなかったことです。時差があるのでそんなに頻繁に電話もできなかったですし、会いたいなーと思うと日本に帰りたいなーと思うこともしばしばありました。苦労したことは正規授業についていくことです。全て英語の授業についていくだけでも大変でしたが、ネイティブの中で授業を受けるので、当たり前ですが、同じようなクオリティーでレポートやプレゼンをしようとすると大変で自分なり

に努力していたかな、と思います。

③　文化・習慣の違いなどで驚いたこと

アメリカではみんなしっかりと自分の意見を持っていてきちんと主張します。優柔不断で人に合わせがちだった私にとってはそれが本当に衝撃で、自分が思っていた以上にみんなはっきり意見を言うのでいい刺激になりました。そのおかげで留学に行く前に比べて自分の意見がしっかりして主張できるようになったかなと思います。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

①　留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は小さめの学校なので割とみんなと知り合いになれます。あと、学校のイベントが色々あるので興味のあるやつには参加していました。悪かった点はど田舎すぎてスーパーに行くのにも大変だったところです。Millikin の国際課が２週間に１回スーパーにシャトルバスを出してくれるのですが、２週間分買いだめしないとだめなので大変だし不便でした。週末遊びに行くところもなかったので時間を持て余していた時も多々ありました。また旅行に行こうとしても空港までバスを予約してシカゴまで４時間弱かけて行かないといけなかったのでその点も不便でした。

②　日本から持っていって、特に役に立ったもの

パソコンは必須です。あとは常備薬と、日本食、防寒着はしっかり多めに持っていった方がいいと思います。アジアンスーパーが周りにないので自炊したい人は特に調味料などしっかり持っていった方がいいと思います。また冬はマイナス１０度などざらにあるのでしっかり寒さ対策した方がいいです。

③　語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力の面についてはリスニングとスピーキングはやはり自分でもわかるくらい伸びたかなと思います。それと同時に自分はまだまだだと気付かされたので、これからも英語を学び続けたいという意欲も得ることができました。語学力の向上だけでなく、ダイバーシティの理解、自己管理能力、自分の考えを整理して主張できる力など、留学をしたから身についたものはたくさんあると思います。

④　これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

少しでも留学に興味があるのなら挑戦してみるといいかなと思います。結局やるかやらないかは自分が決めるものなので、本当に留学したいなら時期はいつからでも遅くないし、どんなことでもなんとかなります。留学するって決めたあとは、できるだけ何に関しても早め早めに行動するといいと思います。ギリギリでもなんとかなりますが、早めにこしたことは

ないので！

Ⅳ．将来の目標

①　今後の進路、将来の目標・夢

まだ具体的に何がしたいと言うものは正直ありませんが、この留学で得たものを活かせたらいいなと思っています。

Ⅴ．写真

私が住んでいた寮、Woods です。割と新しくて綺麗です。

ルームメイトの子によくドライブに連れていってもらって、いろんなお店に一緒にいっていたのですが、大学近くのダウンタウンにあるカフェがおしゃれで、デザートが全部美味しいのですが、特にチーズケーキがめっちゃ美味しいです。

１、２月はよく雪が降って、結構積もります。一面真っ白で、こんなに雪が降っているのをはじめてみました。寒すぎる日はまつげも凍ります。

2018 年度（秋ｽﾀｰﾄ・1 年）
Millikin University

ESL のお別れパーテイーをプロフェッサーのお家で開いてもらった時の写真です。みんなでご飯を食べたりゲームしたり話しあったりして楽しかったです。

Ｎ．Ｋ．英語英文学科・２年次

Ｉ．留学レポート

①　協定留学を目指した理由

私は、高校１年生の夏に滋賀県の留学プログラムを利用して、滋賀県と姉妹提携を結んでいるアメリカ・ミシガン州に約３週間交換留学をしました。私にとってそれが初めての海外で、見るもの感じるもの全てが初めてでした。その際に、ワクワクするとともに自分の英会話のレベルの低さに驚きました。英語は自分の一番得意な科目で毎日沢山の英単語を覚え、多くの時間を英語に費やしていたのにもかかわらず、簡単な文章ですら口に出すことができず、もどかしい気持ちになっていた事を今でも覚えています。理想に描いていた自分と違う自分がいると思い、悲しく情けなくなりました。また、英語を話せるための勉強をこれからしなければいけないと気づきました。その時から、「絶対アメリカに戻って来てリベンジしたい!」 と強い気持ちを抱いていました。また、英会話力を伸ばすためには「アメリカに溶け込める人」にならなければいけないと思いました。言語の壁を初めて痛感した私は普段の自分通りに振る舞うことができずにいました。そして、「だれかが話に来てくれる。質問してくれる。」と思ってしまった自分がいました。幸いなことに、ホストファミリーは本当に私に優しく接してくださり、ホストシスターを通じて何人かのお友達ができました。しかし、期待していた以上には輪を広げることができませんでした。その際に、自分から積極的にコミュニティーを広げていかなければいけないと気づきました。また、アメリカは個人主義なので、自分らしさを自分で伝え周りに求めてもらえる努力をしないといけないと強く思いました。大学では絶対に長期留学をしたかったので、同女に入学してからすぐに留学プログラムを熟読し、TOEFL Camp にも参加をしました。留学は自分が何を一番重視したいか、だと思います。私は、現地学生と一緒に授業を受けたい、ということを重視していたので協定留学を目指しました。

②　留学を目指してから出願までの英語学習方法

協定留学を目指す学生は、IELTS を受けるか TOEFL iBT を受けるかで迷うと思います。私の場合は迷うことはありませんでした。決めてだったのは speaking の試験方法です。TOEFL iBT は、パソコンを用いた受験です。一方で IELTS の受験方法は、ネイティヴの面接官がおられます。私は英語４技能の中で、speaking が得意だったので、アイコンタクトや表現力が試験結果につながってくるのではないかと思い、IELTS の受験を決めました。私は、大学１回生の１２月に IELTS を１度受けました。本屋さんで４技能を強化できる IELTS の本を１冊買いました。本にアンダーラインや書き込みを沢山して、オリジナルの

本を使いました。また、２冊自分の自主ノート（speaking・writing）を作っていました。ネットで問題例や、回答例が沢山載っていたので一つ一つノートに写して、高得点が狙えそうな高度なフレーズなどを暗記していました。speaking や writing では、多くの問題に慣れることは本当に重要なことだと思います。しかし、高得点を取るためには高度な英単語や文法を使うことが求められると言われていたので、少しずつそのような単語を覚え、慣れていきました（例えば、about ではなく approximately を使うなど）。また、writing に関しては、大学におられるネイティヴの教授に自分の書いた essay を放課後に何度も採点してもらっていました。その際にナチュラルな英語を学べたので、本当にためになりました。

③　留学決定から出発までの準備期間

少しでも英会話力を伸ばしてアメリカに行きたかったので、日本に留学していた海外のお友達と沢山話したり、ナチュラルな英語を教えてもらったりしていました。また、英語の授業にはより一層力を入れました。毎回プレゼンテーションをしていたときには、自分で作ったスクリプトを海外の友達に見てもらって自然な英語を沢山教えてもらい、暗記するまでプレゼン練習をしていました。覚えたフレーズは留学中でも沢山使えたので、本当に意味がありました。また、英会話に役立つ単語やフレーズを沢山暗記しました。英語には暗記しなくてはいけない決まり文句が数えきれないほどあると思います。「こんなフレーズがあるんや！面白い！今度使ってみよう！」という気持ちで楽しく英語を学んでいました。ビザ申請に関しては、まず始めにネット上で自分の情報を入力して、VISA（学生 VISA/I20）を取得するためにお金を支払いしました。また、面接希望日を選択しました。そして、大阪領事館に１度行き、面接を受け VISA を取得しました。

④　現地到着後

私はミリキンに留学する友人と一緒のフライトに乗りました。私たちは韓国経由でシカゴにあるオヘア国際空港に向かいました。空港に着いてからミリキンのシャトルバスが予定の時間に待機していました。それに乗ってミリキンに向かいました。空港からミリキンまでバスで約３時間半かかります。オリエンエーション期間は約１週間ありました。留学生一人ひとりに FYEM と呼ばれる現地学生がついてくれます。私の FYEM はレキシーという２回生の女の子でした。学校内を案内してくれたり、カフェテリアや夜ご飯を外に食べに行ったりしてくれました。また、学校の近くにある Walmart（ウォルマートと呼ばれているアメリカで有名なスーパーマーケット）に留学生と FYEM 全員で行って、生活に必要なベットシーツや調理用品などを買いました。また、大学生活や寮に住むにあたっての説明があり書類にサインをしました。そして、ミリキン新１回生と留学生が交流できるイベントがありました。多くのグループに分かれて、小さいアクティビティーがありました。その際に沢山

のお友達を作ることができました。オリエンテーションでの１週間が自分のコミュニティーを広げる大きな鍵になりました。

⑤　語学研修期間

◆　語学研修先の施設・環境について

ESL（語学研修）の授業はミリキンのメインキャンパスでありました。ですので、語学施設のような建物は特になかったので授業移動がしやすかったです。学生一人ひとりにアドバイザーがいて、履修したい授業のことや授業内容を詳しく教えてくださいます。その際に、私の場合最低２つ ESL の授業を履修すればいいと言われました。

◆　授業内容、課題、試験

私は、２つ ESL の授業（College Writing・College Speaking & Listening）の授業を履修しました。College Writing の授業は、私を含め５人（デンマーク人学生２人、韓国人学生１人、ルワンダ人学生１人、日本人１人）で受けていました。大きな essay を８つ書きました。タイトルの例で言うと、日本のお正月文化、アメリカのホームスクーリング、日本の英語教育などについて書きました。その際に、インパクトを与えやすい英単語や引用の方法について学びました。ほとんどの授業でペアワーク（組み合わせはランダム）になって、お互いの essay を読んで、良い点や疑問に思った点などを伝え合いました。クラスメイトは本当に英語能力が高かったので、お互い沢山学び合いができました。主な課題は thesis statement, body, conclusion を考え、body までの essay を書いてくるなどでした。そして、試験は特にありませんでした。試験の代わりに essay を提出していました。また、College Speaking & Listening の授業は私を含めて１３人の学生が履修していました（フランス人学生３人、スペイン人学生３人、ルワンダ人学生３人、韓国人学生２人、日本人学生２人）。主にプレゼンテーションがメインでした。主なテーマは、母国の特徴、世界の問題、自分の将来などでした。また、現地学生の正規授業（American Education/ED120）の学生とコラボレーションをして国ごと（例：日本人学生と現地学生３人）に別れてプレゼンテーションを行いました。私はアメリカの教育について、現地学生は日本の教育についてプレゼンテーションを行いました。様々な国からの学生と関われたことは、自分の感じ方、価値観、感情などを大きく変えることができたと思います。また、各国の状況を生で聞けたことが本当に嬉しかったですし、世界中に知り合いができたということは自分の自信にも繋がりました。課題は、プレゼンテーションを練習してくること、教科書の練習問題を解いてくること、そして Intensive Listening という課題がありました。Ted talk などのビデオを見たあと感想を書き、新しく聞いた英単語を調べ、定義を書き、ビデオ内容に関する質問を考えるというものでした。課題にしっかり取り組むことで、自分の視野や価値観を少しずつ変えて行くこ

とができました。

⑥　正規科目履修期間

◆　大学の施設・環境について

私は主に２つのメインキャンパスを利用していました。ミリキンは本当に小規模の大学です。少人数クラスでは約５人、大人数クラスでも約３５人でした。指定席はありませんが、毎回同じ席に座ります。ミリキンは同女と同じ規模のキャンパスなので、授業移動には全く苦労しませんでした。また、少人数の授業ということもあり、教授は学生一人ひとりのことを理解してくださり、クラスメイト＝友人という関係でした。本当に自分にとって過ごしやすい環境でした。

◆　履修科目

・Public Speaking/CO200

この授業はプレゼンテーションを強化するための授業でした。合計で８回プレゼンテーションを行いました。毎回、お題はありましたがテーマは自分で決めるという形態でした。例えば、Informative Presentation のお題の際、私は日本の観光事業について話しました。Persuasive Presentation のお題の際は、大学生は留学をするべき、というテーマでプレゼンテーションを行いました。また、教科書を使って、上手にパワーポイントを作るコツや、効果的にプレゼンテーションを行う方法について学びました。また、中間、期末テストはプレゼンテーションでクイズも数回ありました。

・Introduction to American Education/ED120

全ての授業に大満足でしたが、この授業は特に楽しめました。教育学部の１回生の学生は必修の授業でした。アメリカ教育の歴史を学んだり、自分にとって素敵な先生像を考えたり、面白い授業を進めるアイディアを出していくことなどに取り組みました。また、上記で述べた通り、ESL の授業を取っていた留学生とコラボレーションでプレゼンテーションを行いました。そして、筆記の中間、期末テストがありました。テスト前に授業内容のまとめのプリントを配ってくださったので、しっかりと内容を理解でき、テストに臨むことができました。また、セメスターの最後に学生一人ひとりが長めのプレゼンテーションを行いました。

・Foundation of Bilingual Education

教育学部の学生が履修していました。授業内容は、アメリカ教育の問題点、考慮しなければいけない点などを学びました。また、数回プレゼンテーションを行いました。中間、期末テストはありましたが暗記テストではなく、ペーパーの提出が求められました。セメスターの最後のペーパーは１２ページ書きました。また、一度クラスメイト全員で課外活動を行いました。スペイン語と英語が主に使われている学校に行って、授業を観察したり、生徒と交流

したりしました。

・Introduction to American Education (Internship) /ED170

この授業は Introduction to American Education/ED120 の授業とセットでした。水曜日朝８時から１０時４５分までインターンシップを行っていました。ミリキン近くの小中高から自分の行きたい学校を選べます。私は小学校の 3rd grade を担当していました。インターンシップの主な内容は、担任の先生のお手伝いや私の希望で自らプリントを作成し、日本語を教えていました。秋学期に行ったインターンシップだったのですが、春学期も時間がある際に教室に遊びに行っていました。このインターンシップは、１単位制でした。

・Language Development & Linguistics/ED 238

この授業は週に１度の夜の授業で水曜日夜６時から１０時までででした。ですので、１学期間ではなく３か月間の授業でした。授業内容は、小学生はどのような形で能力を深めていっているのか、どのように言語を理解していっているのかなどを学びました。暗記テストはありませんでした。その代わりにペーパーを数回提出していました。ペーパーの内容は、バイリンガルの小学生にインタビューを行い、その子の授業と取り組み方を観察してまとめ、自分の考えを述べたりしました。

・Business Conversations/ BU230

この授業は週に３回ありました。ビジネスのトピックでプレゼンテーションを行う授業でした。合計で１０回プレゼンテーションを行いました。また、教科書にはビジネスに関わる沢山のシナリオがあり、どのように会議を進めていくか、どのような言葉遣いをするべきかについて学びました。

・Introduction to Creative Writing/ EN201

ポエムを書く授業でした。どのように読み手にイメージを湧き起こさせるかについて学び、色、四季、などを用いて想像力を深めさせるポエムを作成する練習をしていました。また、数回の授業に一度ワークショップと言われるものがあり、自分のポエムを読み、自分が工夫した点を伝え、クラスメイトや教授から感想を頂いていました。

・Communication Career Lab/ CO210

レジュメの書き方や、インタビューの受け方について学びました。授業の中で自分自身について発表する機会が多かったです。また、クラスメイトと意見交流を行う時間が多々ありました。暗記テストは特にありませんでした。また、中間テストはありませんでした。その代わりに、期末テストはペーパーがありました。内容は、教科書で学んだことを自分と比較し、自分にとっての・・・とは何か、について述べました。ほとんどの授業は３単位制でしたが、この授業は２単位制でした。

・Intercultural Communication/CO432

授業内容は異文化間のコミュニケーションとは何か、コミュニケーションをとる際に生じる文化の違い、カルチャーショックなどについて学んでいました。例でいうとアメリカと日本の文化、生活習慣、考え方は大きく異なっていて、自分は両国に住んだことがあるのでその違いを生で感じていたこともあり、自分の感じたことやバックグラウンドをクラスメイトにシェアしていました。中間、期末テストは暗記テストで四択とエッセイパートがありました。

◆　授業、レポート、定期試験

アメリカの授業は３単位制なので、１週間に同じ授業を２、３回受ける形式です。アメリカでは、パソコンにメモをしている学生もいました。また、毎時間沢山の課題がありました。毎授業で理解できなかった内容や、課題の趣旨も理解できなかった時にはクラスメイトや教授に沢山質問していました。また、レポートの提出も沢山ありました。提出する前には、毎回友達に英語を確認してもらっていました。また、定期試験はクラスメイトと一緒に試験内容を確認したり、ノートにまとめていたりしました。

⑦　クラブ、課外活動、ボランティア活動

私は秋学期にインターンシップをミリキンの授業として履修しました。学校近くの小学校に行っていたのですが、インターンシップを担当してくださっていた教授が、「高校にも興味があったら私が送り迎えしてあげるよ。」と言ってくださり、授業外として、高校にもインターンシップをしました。また、春学期の最後あたりに大学が提供するアルバイトをしました。ミリキンのキャンパス内にあるシアターで大荷物を運ぶ作業などをしていました。

⑧　現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

私は The Woods と言われているアパートにアメリカ人３人と住んでいました。２回生以上で自宅通学ではない学生は、このアパートに住むようです。アパートの中は、リビング、トイレ２つ、お風呂２つ、プライベートの部屋が４つありました。秋学期は１日２食のミールプランとフレックスプランと言われているキャンパス内にあるスターバックスやアパートの横にあるドミノピザで使えるプラン（１万円分）を利用していました。ミールプランの内容は、ビュッフェ形式で、ハンバーガー、フライドポテト、ピザ、生サラダ、スープなどでした。また、春学期はフレックスプラン（１万円分）を利用していました。通学距離はアパートから徒歩約７分ほどでした。

⑨　長期休暇の過ごし方

秋休みにはシカゴに行きました。日本に留学していたアメリカ人のお友達に会いに行きました。シカゴ大学の寮に滞在していました。The bean や美術館、そしてショッピングに連

れて行ってくれたりしました。４日間でしたが、本当にシカゴを楽しめました。そして、Thanksgivingの休暇の際は、オハイオ州にあるミリキンでできたお友達の家に行きました。お祝いで出されたターキーなどをいただき、Black Friday などを楽しみました。本当に私と家族のように接してくださいました。そして、ミリキンの冬休みは本当に長く１２月１５日から１月１９日までありました。初めにボストンに５日間行きました。日本で出会ったアメリカ人のお友達に会いに行きました。期末テスト期間中だったのにも関わらず、毎晩ボストンのシティに連れて行ってくれました。ハーバード大学にも行きました。その次に８日間LA に行きました。両親が遊びにきてくれました。サンタモニカ、ビバリーヒルズ、ディズニーランド、ユニバーサルスタジオハリウッドなどに行きました。毎日最高に良い天気でパムの木に囲まれて、素敵な時間を過ごせました。その次に３週間テキサスに行きました。ミリキンでできたお友達のお家にいました。お友達の家族と一緒に日本食を楽しみ、このご家族も本当に私に親切にしてくださいました。ヒューストン、サンアントニオ、オースティンなどにロードトリップに連れて行ってくれました。そして、リブやロディオを楽しみ、また、NASA やアラモや博物館などにも連れて行ってくれて、テキサスを存分楽しむことができました。その際に、ルイジアナ州にも連れて行ってくれました。その次に３日間シカゴに戻りました。その際は、ダウンタウンには行かず、シカゴ大学の授業をお友達と聴講したり、大学の近くのカフェに行ったりしていました。春休みの際には、もう一度オハイオ州のお友達のお家にお邪魔させていただきました。動物園や、ショッピングモール、インターナショナルスーパーマーケットなどに連れて行ってくださいました。Easter holiday の際には、イリノイ州にある教授のお家に泊まらせていただき、その次にもう一度シカゴに行きました。ミリキンを出てから帰国するまで２週間、余暇の時間があったので、シカゴに１週間いてから、ニューヨークに４日間いました。初日は日本に留学していたアメリカ人のお友達とカフェ巡りやタイムズスクエアに行きました。また、夜にミリキンでできたアメリカ人のお友達と合流しました。そして２日目には、私が高校生の時に ALT として来日されていた方と再会しました。再びタイムズスクエアに行ったり、自由の女神を見たり、マンハッタンに行ったり、ブルックリンブリッジなどに行きました。その後は、カナダのフレデリクションというところに９日間行きました。カナダ人のお友達のアパートに泊まっていました。週末マーケットやダウンタウン、ショッピングモールなどに連れて行ってくれました。メープルのアイスクリームが本当に美味しかったです。全ての休暇を有意義に過ごせました。

⑩　留学期間中の就職活動の取り組み

特にないです。

Ⅱ．留学の感想

①　留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

周りの人達の愛情に本当に恵まれていました。数え切れないほどのお友達ができ、私の教授たちも私にとても温かく接してくださいました。よくご飯に連れて行ってくださり、お家にも招待してくださいました。また、キャンパス内にあるスターバックスやカフェテリアでお友達とチャットする時間も好きでした。そして、キャンパスを歩いている際５秒に１回のペースでお友達に出会っていました(笑) その際に、まるでコンサート会場のような盛り上りで話し始める日々も好きでした。放課後にお友だちとキャンパス付近の公園に行って夕日を楽しむことが日課でした。また、アメリカ人ルームメイト３人と毎日アパートで語り合う日々でした。そのような日常が私の一生の宝物です。遠出をしなくてものんびり喋っている時間が本当に好きでした。ですので、１つに絞ることはできないです。何気ない日常が本当に楽しくて最高の思い出です。

②　留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学中でつらかったことは、日本食を食べる機会が本当になかった点です。車で１時間のところにアジアンスーパーマーケットがありましたが頻繁には行けなかったので、本当につらくて１番のストレスでした。また、大学の近くに Fuji と呼ばれている日本食レストランがありましたが、日本食と呼べるような料理ではなかったのが本音です。完全にアメリカナイズのお寿司でした（マヨネーズ、クリームチーズ、などのヘルシーではない材料)。そして、アメリカの田舎にいたこともあり、ガッツリのアメリカ食に囲まれた生活でした。フライドポテトが主食かのようにどこにいてもフライドポテトを目にしていました。また、カフェテリアでは、味が濃すぎるピザ、マカロニアンドチーズなどや、甘すぎるカップケーキなどばかりで、日本食が大好きな私にとっては食事に関して涙が出そうになるほど嫌でした。また、飲み物に関しては、ミリキンに着いてからカフェテリアでリプトンを飲みました。「リプトンは日本にもあるし、ハズレはないやろ。」と思っていたのですが、日本で飲むリプトンより３倍以上甘く感じ飲めませんでした。また、日本では食事中にお茶やお水を飲むことがほとんどだと思います（たまにアルコール類)。しかし、アメリカでは飲み物＝炭酸飲料と言って良いほど、炭酸飲料の種類が豊富です。私は、お茶や水しか飲みませんでした。水道水は日本では飲みませんが、ルームメイトたちは、「イリノイの水道水は問題ないわ」と言っていたのでそれを信じて水道水を飲んでいました（友人はお腹を下してしまったみたいです・・・)。これらのことを通して、いかに日本食はヘルシーで美味しいのかを再確認できたので良い経験になりました。

③　文化・習慣の違いなどで驚いたこと

まず１つ目はアメリカでは個人主義社会なので、どのような人でも受け入れてもらえ、周りを気にすることなく自分をさらけ出せる社会です。異なった人種、バックグラウンド、宗教、意見、考えなど違いがあることは意識されていません。むしろ、違いを見せることは良いし、周りから興味を持ってもらうために本当に大切なことです。ですので、私のバックグラウンド、私から見たアメリカ、素直な意見を沢山シェアしました。私のいたディケーターというところは本当に田舎で、ほぼアメリカ人しかいないエリアということもあり、異なった文化、考えなどにみんなが興味を持ってくれました。自分で自分の特徴や違いを伝えないと周りから求められない社会です。“空気を読む”という言葉はアメリカ文化にはないように１人で待っていても誰も話しかけてくれたりしません。また、思ったことを言葉に出す社会なので、アメリカ人の友達を作りたかったら自分から自己紹介して、「少し話せる時間がある？」と質問したり、英語を教えてほしかったら、「私は英語勉強中だから、レポートの英語チェックしてくれるかな？」と聞かなければいけません。そして、人の行動や環境は州によって異なりますが、ディケーターやミリキンの学生、教授は本当にフレンドリーで優しい方ばかりです。友達の友達はもう自分の友達で、初対面で少し話しただけでも、今度夜ご飯食べに行こう、という流れになります。留学で他国や現地のお友達を作れるかは自分の気持ち次第です。英語を間違えることは当たり前です。留学の１つの目的は語学力を高めることだと思います。ネイティヴはみんな、「アメリカ人のほとんどは１か国語しか話せないから、２か国語話せることは凄いとこだよ。」と褒めてくれます。自分の英語力に自信を持って精一杯自分のコニュニティーを広げていってください！２つ目に良い点は、学生全員本当に勉強熱心な点です。欠席はほとんどなく、授業中に携帯を触る学生や、睡眠をとる学生は誰一人いません。先生が学生に意見や質問を求めていなくても、学生は自ら意見を述べ合います。一人ひとり強い意見をしっかり抱いていて、自分のことを伝えて終わりというのではなく、周りの意見にしっかりと耳を傾け、尊重しています。授業後には理解できなかった内容を教授に質問します。また、放課後はみんな課題に追われています。現地学生の大学生活の過ごし方は、meaningful で本当に尊敬します。山のような課題の日々でしたが周りの学生も同じ状況だったので全く辛くなく前向きに頑張れました。

文化の違いでまず驚いたところは時間にルーズな点です。もちろん全員ではありません。しかし、ドタキャンや集合時間に遅れてくること、公共機関が遅れることは当たり前です。また、“自由な国”と言われていますが、日本と比べると自由すぎる社会です。テキサスのミュージアムを訪れた際にいた警備員さん（５人ほど）が仕事中にも関わらず椅子に座って携帯ゲームに夢中でした。また、私のいたエリアは分別するゴミ箱がほとんどありませんでし

た。そして、人前であくびをする際に手を添えない人が多い点や、大きな音でゲップをする人もいてそれには特に驚きました。また、貧乏ゆすりのポピュラーさには驚きました。日本ではお行儀の悪い行動ですが、アメリカでは悪い習慣だとは思われてないようです。授業中に「あれ？地震？」と何度も思うときがありました。その理由は貧乏ゆすりをしている学生たちの振動によるものでした（笑）　私は、それで授業に集中できないときが多々あり本当に嫌でした。次にパーティーはアメリカの文化です。音楽を爆音にしてダンスをする人が多いです。私はアパートの１階に住んでいて、本当に素敵なアメリカ人ルームメイトたちだったので、気遣いをしあって夜は一緒に喋ったり、静かに課題をしていましたが、２、３階に住んでいる学生は夜中にも関わらず部屋を走り回ったり爆音の音楽を流していたので、ルームメイトたちと怒っていました（笑）　また、テーブルやソファに靴のまま足を乗せるのも普通のことみたいです。また、図書館で大きな声で喋っている学生がいたので、勉強に集中できないこともありました。そして、土足 OK な点です。赤ちゃんが土足 OK な床をハイハイすることも全く問題ではないようです。数え切れないほどの文化の違いを生で体験しました。「これはおかしい」というのではなく、文化の違いを理解する努力をし、大きい器でいることが必要です。生で文化の違いを見たり、感じたりすることは誰もができることではありません。カルチャーショックは留学の最後の最後までありましたが、日本に帰国してから、アメリカの現状を知れてよかったと思えたので良かったです。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

①　留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点

私は、協定留学を考えているときからミリキンしか頭にありませんでした。決め手だった点は、主に５点あります。１つ目は小規模大学だったという点です。ミリキンは学生数２，１００人ほどだと言われています。小規模のほうがアットホームでお友達と強い絆を作れると思ったからです。それは思っていた通りでした。上記に述べたようにキャンパス内を歩いているだけで頻繁に友達に出会えます。たまたま出会った時でも、「一緒にランチしようか？」という流れになりました。また、授業が最大でも３５人ほどです。ですので、自分の状況（英語勉強中）を理解してくれ、いつもサポートしてもらえました。プレゼンや意見を述べる際、本当に真剣に耳を向けてくれました。留学生活がまだあと半年あったときにも関わらず秋学期最後のクラスのプレゼンテーションでクラスメイトに感謝の気持ちを述べる時に嬉し涙が止まりませんでした。また、自分の留学生活を春学期最後あたりの授業で述べる際やミリキンでの最後のプレゼンテーションでも涙が止まりませんでした。それほどミ

リキンで現地学生と受けた授業は本当に意味があり、楽しい時間でした。本当にクラスメイト全員の顔や素敵な性格をはっきりと覚えています。２つ目は、寮生が学生の７割ほどだった点です。ディケーターの夜は治安が悪いです。ですが、キャンパス内や寮内は安全なので夜中でも時間を気にせず友達の部屋などに遊びにいくことができ、一緒に夜ごはんを食べたり課題をしたり、本当に楽しい時間を過ごせました。次は留学生が少ないということを聞いていたことです。実際５０人ほどでした。また、現地学生はほぼアメリカ人でした。つまり、違う人種の学生は留学生という現地学生の認識でした。ですので、留学生の存在を大切してくれ、彼らは留学生に本当に興味を抱いてくれ、常に温かく接してくれました。次は、ESL 授業料は自己負担ではなかった点です。他の協定大学先では自己負担になってしまうところが多いです。最後は、田舎のほうがいいイメージがあった点です。田舎すぎて退屈に感じてしまうときは多々ありましたが、人々は本当に優しくフレンドリーで差別なども私は一切経験しませんでした。また、ミリキン大学は周りの地域の方から大切にされ、素敵な環境でした。

悪かった点

ミリキンでの留学生活には大満足でしたが、何点か伝えたい点があります。１つ目は、ミリキンは本当に田舎にあることです。日本食が手に入る場所が近くになく、苦労しました。そして、私たち留学生にとっては想像がつかないほど田舎にあるという考えでしたが、現地の学生の約半数は、ミリキンはシティにあるという認識でした。理由はコーン畑しか無いエリアをスモールタウンすなわち田舎というようです。その認識の差もあり彼らと共感し合うとこができず少しつらかったです（笑）　２つ目は交通機関が大学の周りにありませんでした。私は幸いなことにルームメイトや現地の友達に常に車に乗せてもらっていましたが、ウーバーを利用しなければいけない留学生も多かったみたいです。また、教授も快く車に乗せてくださるので、頼んでみることもおすすめします。最後は食事です。イリノイ州の真ん中にいたこともあり、魚を日本のように頻繁に食べる習慣はなく、新鮮な魚を食べられないことがつらかったです。

②　日本から持っていって、特に役に立ったもの

パソコンは必須です。現地学生ほぼ全員が自分のパソコンを持っていると思います。レポートの提出は Moodle といわれているミリキンのウェブサイトに提出することが多いので、自分のパソコンを所持していると本当に楽です。次に電子辞書です。電子辞書がない生活はありえませんでした。あとは日本食です。現地でも日本食を買うことは可能ですが、日本の値段の約５倍ほどするものもあるからです。

③　語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

確実に speaking が向上したと思います。留学する前から英会話がとても好きで少し自信がありました。しかし、毎日朝から寝るまで英語を話す中で、どう伝えたら良いのか曖昧な時は多々ありました。その際は、「こんな感じのことを言いたいけど、どう伝えたらいい？」と聞いていました。常に新しく聞いたり話したりした単語や文章、ネイティヴからのメッセージで新しく学んだものを携帯にメモしていました。アメリカにいるからといって勝手に英会話ができるようになるわけでありません。speaking を伸ばせるかどうかは、いかに自分が学んだフレーズを用いようと意識するか、新しく覚えた単語を使う挑戦をするかだと思います。英会話力は話せば話すだけ絶対に伸びると思います。また、現地学生の前で数え切れないほどのプレゼンテーションをしました。その際に絶対に伝えないといけない情報は確実に暗記していました。また、プレゼンテーション前は暗記するほど練習していたので、それが speaking 力向上に繋がりました。私は机に座って長い間勉強できるタイプではないので、毎日沢山のお友達と声が枯れそうになるほど喋っていました。周りからいつも「自分もおしゃべりやけど、あなたもめっちゃおしゃべりやな（笑)」と言われていました(笑）留学して２か月が経った頃、１人のルームメイトと話していたときに、「めっちゃスピーキング力上がってるで！」と急に言ってくれたことを覚えています。また、ニューヨークで ALT と再会したときに、「高校の時はただの日常会話しか話せんかったのに、今は政治、社会問題とかについて語り合えてる！」と思い、いつの間にか speaking が伸びていることに気づきました。これからもまだまだ話す際に使ってみたいフレーズがあるので頑張り続けたいと思います！

④　これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

協定留学を本当にオススメします！！IELTS などの４技能試験での高得点スコア出さないと出願できないというのはプレッシャーになってしまうと思います。しかし、現地の学生と同じ授業を取れることは一生忘れられない思い出になります。言語習得に終わりはありません。母国語でも分からない言葉は沢山あります。アメリカ人と一緒に定期テスト勉強をしたとき、教科書に分からない単語があり、意味を尋ねたところ、「自分も初めてみた単語やから調べよ！」と言っていました。英語の分からないところがあると落ち込みがちですが、ネイティヴと比べる必要はないということにこの留学で初めて気づいたことです。間違えることは当たり前です。ほんの少しずつの成長の過程が大きな一歩に繋がって来ると思います。そして、留学は言語力を向上できるという点だけではなく、心も強くなります。母国を離れ誰も知らない状況から自分でコミュニティーを作る必要があります。また、日本ではできない経験を通して、自分の価値観、考え方、様々な角度から物事を捉えられるようにな

ると思います。気づかないうちに留学で得られているものの凄さに驚くと思います！また、私はリーディングが苦手なので、少しずつボキャブラリーの幅を増やしていきたいと思います。一緒に英語の勉強を頑張りましょう！そして楽しい留学生活を送ってほしいです：）

Ⅳ．将来の目標

①　今後の進路、将来の目標・夢

今後の進路はまだ悩んでいますが、英語に関わる職業に就きたい夢はあります。

Ⅴ．写真

アンディという１つ上のお友達です。秋学期一緒の授業を取っていたこともあり、一緒に夜ご飯を食べたり学校のイベントに参加したりしていました。また会う度に沢山の写真を撮っていました。これは何気ない日常の写真です☆

これはルームメイトのお誕生日会をした際の写真です。上記に述べた通り、私は３人のアメリカ人と住んでいました。残念ながら、このとき、もうひとりのルームメイトはクラブ活動中だったので写真にいません・・・。本当に明るくて優しい１つ上のルームメイトたちでした★

この写真は女子寮のオープンイベント（９月）に参加させてもらったときの写真です。留学して１か月が経った頃だったと思います。この際によりお友だちの輪を広げることができたと思います。本当にみんなフレンドリーで私に本当に優しく接してくれました☆

2018 年度（秋ｽﾀｰﾄ・1 年）
Millikin University

これはインターンシップでハロウインパーティーが行われた際に撮った写真です。学校にコスチュームを着ていけるイベントがあるのはアメリカっぽいですよね！みんな本当に可愛くて微笑ましかったです★

ミリキンを出る最後の日のランチに撮った写真です。いつも仲良くしてくれたシアター専攻のお友達です。数え切れないほど一緒にランチや夜ご飯を食べ、外食を楽しみ、他愛もない会話をして笑いの耐えない日々を過ごしていました。最後お別れをする際私は号泣してしまっていました・・・本当にお気に入りの写真です☆

T．Y．人間生活学科・２年次

Ⅰ．留学レポート

①　協定留学を目指した理由

高校 1 年生の夏にカナダのサマースクールに行き、それくらいの時期からいつか長期の留学に行こうと漠然と考えていました。具体的に留学を考え始めたのは大学が決まった後の比較的早い段階です。また、中高の友人の多くが海外経験をしており、大学に入ってからも長期休暇などで会い、話しを聞く度、自分も視野を広げなければならないと感じられた上、モチベーションの維持にも繋がりました。留学を目指した理由としては、将来への投資の一部です。グローバル化の進む社会において、視野を広げて、自分の考えや言動に根拠となる経験を提示することはどのような分野においても大切だと思うし、他人から信頼されるだけの価値の付随や人間としての深みが得られると考えたからです。

②　留学を目指してから出願までの英語学習方法

大学の普段の講義が忙しく、また英語とはほとんど無縁な学科に所属しているので、学期内で特にこれといって英語学習をしてはいません。大学受験までに培った英語力が大いに役立ちました。ただ、私の場合、出身の中高が writing や speaking など、受験ではあまり必要とされない項目にも力を入れていたので参考になるかはわかりません。また、大学 1 年生の夏に国際課が主催する TOEFL Camp に参加しました。その時に IELTS の解き方を教わることができた上、そのキャンプの最後に参考書をもらえたので、とても有意義な英語合宿だったと思います。その時に国際教養学科、英語英文学科の友人もでき、その後も時折情報交換をしていました。大して準備もしていなかったため、ダメ元で出願にギリギリ間に合う時期の IELTS を受けたら、留学できる最低スコアに達していたので出願しました。出願時に提出した英作文は、その時既に長期休暇に入ろうとしており、大学の提供するネイティブの先生に見てもらう機会が得られなかったので、自分より英語のできる昔の友人に添削してもらいました。

③　留学決定から出発までの準備期間

当時、教員免許の取得を目指していたので、卒業に必要な単位と免許取得に必要な単位を同時に、取れる分を取り切らなければならなく、また実習の課題もあったりと、英語の勉強どころではありませんでした。ビザの申請手続については、実家が離れているのでなにかと大変でした。一つ両親のサインがいるのに、郵送で往復一週間弱はかかるので、それを考慮に入れて動くように心がけました。また、パスポートの有効期限が留学終了予定時期の前に切れてしまっていたので、東京の大使館に行かなければならなかったり（領事館では受け付け

てもらえない)、切れる前のパスポート更新だったので、大学からの証明書や直筆の嘆願書のようなものが必要で大変でした。日本国籍であればそこまで心配はしなくてもいいとは思いますが、外国籍の人は気をつけた方がいいかもしれないです。アメリカの領事館での面接はそれほど大変ではなく、書類を揃えて早めに行けば、呆気ないほどすぐに終わりました。

④　現地到着後

空港からは大学のチャーターしたシャトルバスが迎えに来てくれました。ただ、飛行機の到着時刻とシャトルバスの出発時刻の兼ね合いで、前日に空港へ到着し、空港で一夜を明かしました。同女の他の留学生と 3 人で一緒にいたので、荷物番をローテーションで行いました。空港では、とにかく水がものすごく高いので、こだわりがなければ、空の容器を手荷物に入れておき、冷水機の水を汲んだ方が良いかもしれません。アメリカの水道水は飲んでも安全ではあるので、ものすごくお腹が弱いとかではなければお腹は壊さないと思います。空港から学校まではシャトルバスで 2 時間半～3 時間半（時間帯や交通量、途中休憩の有無による）です。仮に公共交通機関を使う場合は、事前に長距離バスを予約し、空港から電車で 40 分～1 時間くらいの場所にあるバス乗り場まで行き、そこからバスで 5～6 時間（ほかの停留所にも止まるため）学校最寄りの停留所まで着いたら、そこから大学まで車（Uber）で 15 分のルートが一番お財布に優しいです。寮に到着したら現地の学生が案内してくれます。翌日から始まるオリエンテーション期間も、基本的に一人一人担当の現地学生が見てくれるのでそこまで心配することはないです。ただ、よくわからなかったらわかるまで聞いた方がいいかもしれません。共通の話題があれば仲良くなれるかもしれません。担当の現地学生によって親切度に差があるので、あまり期待しない方がいいですが、必要最低限のことは手伝ってくれます。

オリエンテーション期間にアカデミックアドバイザーに会いに行って授業を決めることになるのですが、できれば履修したい正規科目の学部長や、その授業を担当する教授にメールを送り授業を履修したい旨を伝え、許可を取ってからアカデミックアドバイザーと履修登録をするのがスムーズかもしれません。授業のほとんどに専修・先修規定があるので、交換留学生で、母国の大学ではその分野のことを学んでいるので履修したい、専門分野ではないけど心得があるので履修したいなどと送ると大体は OK してくれます。

⑤　語学研修期間

◆　語学研修先の施設・環境について

Millikin の ESL は大学内にあり、教室や設備も新しく綺麗です。主に使用する部屋は留学生の母国の旗が壁一面を埋め尽くしておりカラフルです。教室の他に ESL を履修している留学生だけが使える部屋もあり、空きコマやお昼に使っていました。ちょっとしたお菓子や

ティーパックが置いてあることもあるので、勉強をするのにも休憩をするのにもいい場所でした。

◆　授業内容、課題、試験

英語で英語を勉強するので、初めはそれなりに大変ですが、教授もそのことはよくわかっていると思うので、恥ずかしがらずに当たって砕けるのがいいと思います。勉強というよりは、グループになって作業や発表をしたり、みんなでディスカッションをしたり、時には児童館のようなところに赴き、自分の国の文化を紹介したり、ちょっとしたゲームをしたりする感じなので、日本の英語学習みたいにガリガリする感じではないです。もちろん宿題に次回やる分の予習や、授業中に解き終わらなかった問題、エッセイが出るのでそれらはしっかりこなしていく必要があります。間違えても大丈夫ですが、丁寧にやった方が授業で質問もできるので自分の為になります。初めは、時間はかかりますが、Vocabulary の課題は最終的に授業前の昼休みにチョチョっと終わらせられるくらいまでになりました。エッセイなども進むにつれて格段に書くスピードが上がりました。試験は Vocabulary のみあります。特別難しいわけではなく、普段の課題をしっかりやって授業に出席していれば落とされるということはまずないと考えていいと思います。また、Intermediate level と College level があるのですが、前者は同女の授業と単位交換ができないので、できれば後者を履修した方がいいかもしれません。

⑥　正規科目履修期間

◆　大学の施設・環境について

メインで使っている建物は建ったばかりらしく、とても新しいです。大学内での印刷は白黒しかできませんが、寮（The Woods のみ）のコンピュータルームでいくらでもカラー印刷ができます。学校にパソコンは十分に完備されていますが、自分のパソコンはあった方がいいと思います。それぞれの学部ごとに建物が分かれており、多くの授業はメインの 2 つの建物で行われますが、その他と専門的な科目にもしっかりと対応しています。また、もうすぐ Theater & Dance 学部のための建物が新しく建つとのことでした。毎週末学校の劇場で何かしらの公演があり、学生証で一公演につき 1 人 1 枚まで無料でチケットがもらえます。施設や学生に対するサービスは充実していると思います。ただ、学校のすぐそばを 1 時間おきくらいに列車が大音量の汽笛を鳴らしながら通るので、ものすごくうるさいです。学生証があれば 24 時間校内に入れますが、特に冬は、出来るだけ早く寮に戻った方がいいかもしれません。大学全体が全米でも屈指の心霊スポットですが、そんなものは感じなかったので大丈夫だと思います。

◆　**履修科目**

◆　**授業、レポート、定期試験**

・Theater Practicum

私は costume studio の衣装を作る係に配属されました。他に、舞台装置、舞台美術、照明など、色んなスタジオがあります。学期の初めに自分で選べますが、多少の人数調整はあるようです。決められた期間内に合計 40 時間スタジオに行って作業を手伝えば大丈夫です。元からできれば即戦力になりますが、できなくても丁寧に教えてくれるので、実務経験が積めます。

・Theatrical Make-up

舞台メイクの授業です。一般的なものから、特殊メイクまでできるようになります。私は普通のメイクが得意になる前に、特殊メイクの方が得意になってしまいました。週 2 で自分の顔に特殊メイクするので、肌荒れは覚悟しておいた方がいいでしょう。

・Drawing2

主に鉛筆、木炭、パステルを使って決められた課題を描いていきます。デッサンがメインですが、「多少の独創性」はむしろ加点対象のようでした。

・Costume Design for Theater

舞台衣装をデザインする授業です。絵を沢山描きます。上手いに越したことはありませんが、上手い下手よりも衣装の設計や、場面に合っているかの方が重要なので、絵が得意でなくても問題ありません。メインの課題が 2 つあり、台本を読んで、全員分の衣装を考えます。台本はもちろん全部話し言葉なので、描くよりも読む方が大変でした。

・Pre Production Video Cinema 1

映画を作るにあたっての準備で何をすれば良いのかを学ぶ授業です。ミニレポートや動画制作課題があります。役者志望の学生にオファーをして演じてもらったこともあります。課題が終わっていれば比較的早く帰れます。個人作業の多い授業です。

・College Vocabulary　（ESL）

語彙を増やして、その単語やイディオムを使えるようになることを目指す授業です。中間、期末テストがありますが、難しくはないです。

⑦　クラブ、課外活動、ボランティア活動

私は特に何もしませんでしたが、劇場のバックステージクルーやアッシャー（案内係）、現地の国際課（CIE）でアルバイトをしている留学生もいました。

⑧　現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

寮やルームメイトは学校側が決めていました。万が一ルームメイトが合わなかったら（それ

なりの理由や交渉は必要ですが)、オリエンテーション期間内くらいには国際課（CIE）に言って変えてもらった方がいいと思います。後で変えてもらおうと思っても寮の管理人がかなり雑なので、なにかと理由をつけて変えてくれません。備え付けてある家電（4 人で共用）はコンロ、オーブン、電子レンジ、食洗機、冷蔵庫、洗濯機、乾燥機、テレビ、エアコンです。マットレスと枕（新品）はありますが、シーツや布団は現地で購入する必要があります。

ミールプランで学食を利用できますが、食材は新鮮ではないものが置いてある時もよくある上、基本的にジャンクなので、私自身は学食のせいで体を壊したこともあり、それ以来は毎食自炊をするようにしていました。中華調味料が手に入りやすいので、中華を作ることが多かったです。たまに、学食のサラダやソーセージなど調理できそうなものをタッパーに入れて持ち帰り、パスタや野菜炒めの具材にしていました。また、果物を洗い、切って冷凍しておくと小腹が空いた時に便利です。

通学時間は、教室の場所にもよりますが、自分の部屋から ESL の教室までは早足で 7 分くらいです。ただ、寮と学校の間に開かずの踏み切りがあるので、引っかかるとかなり待たされます。列車が来たばかりであれば迂回した方が早いですが、そんなに変わらないことの方が多いので、急いでなければ待った方がいいと思います。

⑨　長期休暇の過ごし方

冬休みは一時帰国し、成人式に参加しました。

⑩　留学期間中の就職活動の取り組み

進学希望なので特に何もしていないです。

Ⅱ．留学の感想

①　留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

仲のいい留学生同士で毎週末集まってご飯を食べたり、おしゃべりしたこと。Theater 関連の授業も楽しかった。特に芸術系統の授業では、自分の特技が大いに発揮できたし、仲良くなった友だちと授業のことでああでもない、こうでもないと討論したのは印象深かったです。

②　留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

11 月の半ばくらいに、食事が合わなさすぎてそれなりの期間体調を崩した上、周囲の人が理解してくれなかったこと。食事のことで相談したら、「備え付けの冷蔵庫にスペースがなければ自分でもうひとつ買えばいい」と、マリーアントワネットばりなことを言われた時は心底びっくりしました。欧米諸国で生まれ育った人は、食事が合わないだけでなぜ体調を崩

すのか理解できません。

日本人留学生間の人間関係も苦労しました。異国に来てまでなぜこんなくだらないことに悩まなければならないのかという気持ちになりました。アメリカ人はストレートなことが多いし、日本の表現みたいにやたら婉曲することもありません。日本でやったらあまり上品ではないことも、アメリカでは普通なこともあります。しかし、アメリカ人にも礼儀やちょっとした建前のようなものはあるように感じられました（そうでない場面の方が多いですが)。それらをどう履き違えたのか、なんでも自分の思うままに、相手の立場や気持ちなどを無視した言動を取る日本人留学生に憤りを感じました。私は、例えアメリカの生活に溶け込んで、沢山の異文化を吸収しようとしても、日本にいる時と同じような倫理観は持っていなければならないのではないかと思います。

③　文化・習慣の違いなどで驚いたこと

深夜早朝に平気で騒音を立てる。日中も迷惑なくらいの音量で動画を見る。飼い猫のトイレの掃除を 2 週間くらいしない。他人のものを平気で持ち出した上、「それは私のものだ」と言うと、返してはくれるが、謝りはしない。1 回分のトイレットペーパーの使用量が尋常じゃない。薬物を使用している人がいる。「お金がない」と言いながら、エアコンは 24 時間 365 日つけっぱなし。食器は虫が集まり始めてもなかなか洗わない。ゴミも捨てない。

Millikin では白人と黒人の間にそれなりの壁がある。白人と黒人の混合グループはあまり見ない。アジアン、ヒスパニックもそれぞれのグループを形成していた印象がある。授業中の飲食可。わからなかったら、わかるまで教授や講師の先生に聞いてもよい。絶対に「めんどくさいな」とは思われない。決まっていることでも、大体のことは交渉次第でどうにかなる。突然 “I’m gonna kill you!” と喧嘩を売られることもある。なんか言われたら、英語がわからないふりして何も反応しなければ大体どうにかなる。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

①　留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点

個人的に芸術系の授業に興味があったので、施設が充実していたり、実務経験の豊富な教授の話が聞けたりしたのはとても有意義でした。舞台衣装に関する授業を 2 つほど履修しましたが、ディズニーのドレッシングクルーを 20 年近くやっていた教授や、ハリウッド作品に関わったことのある教授が担当してくれました。2D 絵画の授業も履修しましたが、学生の独創性をしっかりと評価してくれる教授でした。実務経験を沢山させてくれるところも、日本の大学ではなかなか得られない経験なので良かったです。結構無茶な課題を出してく

る授業もありましたが、どうにかすることで色んなことが得られたと思います。

悪かった点

寮内環境は決して良いとは言えないでしょう。今回、余りにも留学生からのクレームが多かったようで、改善に向けて努力はしているらしいです。カフェテリア（学食）の食事は、現地学生も認める程の不味さです。「プラスチックの木工用ボンド和え～雑草を添えて～」というタイトルが相応しいパスタのようなものがあった時もあります。美味しくないとは聞いていましたが、不味い以前に人間の食べるものじゃないのでは、と思うようなものもありました。

移動手段が車しかないので、ものすごく不便です。隔週で大学の担当者が近場のウォルマートまで連れて行ってくれますが、毎日自炊をするとなるとギリギリです。また、最寄りのアジアンマーケットまで車で 1 時間程度かかります。

② 日本から持っていって、特に役に立ったもの

パソコンは必要だと思います。私は iPad Pro にキーボードをつけたもので代用していました。絵を描く課題が多かったので、個人的にはものすごく役に立ちました。課題やプリント、ノート等も電子媒体からクラウド上に記録していたので、帰国時に無駄な荷物が省けた上、別の電子媒体からも簡単にアクセスできるので便利でした。他に、菜箸、お碗、粉末出汁、日本のお菓子、スポンジ、洗濯ネット（複数枚、大きめのもあった方が良い）、大きめの手さげ袋（エコバッグのようなもの）等があると便利だと思います。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力の向上はもちろんですが、異文化への理解が深まったように思います。今まで、なぜこんなことをするのか理解できなかったものも、歴史に基づく各国の背景や宗教、環境、気候などなど、色んな理由があって異国の人たちはそのような言動をとっているのだとわかるようになりました。また、自分の将来や、やりたいことも具現化され、それに向かってどのようにアプローチすればいいのか、具体的な目標もできました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

日本から留学に来ていること、アジアから留学に来ていることに誇りを持って留学生活を送って欲しいなと思います。周りに流されずに、自分の信念を貫いて欲しいです。

Ⅳ．将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

アメリカ人の日本やアジアの文化への理解が私たちの思うものと違うので、アメリカの人のみならず、私たちの文化に興味を持ってくれている海外の人により深く理解をしてもら

い、海外の人と私たちの文化の認識の差が小さくなるようなことがしたいと考えています。特に、私は人間生活学科に籍を置いているので、その中でも服飾に関することを広めることができればいいなと思っています。将来は、人に何かを伝える仕事がしたいです。

Ⅴ．写真

寮の外見。一棟におよそ 12 部屋。

寮の中。共有スペース（LDK）。撤収直前なので綺麗だが、普段はそんな生易しいものではない。

Art Department の共有アトリエ。できれば夜は 1 人で来たくない。

Costume Studio 内部。さらに奥にはストレージとフィッティングルーム、ランドリールームがある。かなり充実している。